

夏祭—神輿渡御神事

六十八号に引き続き、夏祭をより深く理解していたため、今号では「茨木村の二十七町と茨木神社夏祭」について特集します。

*氏子によって受け継がれてきた地域の伝統「茨木神社夏祭」

茨木神社夏祭は、遅くとも江戸時代中期に神輿渡御が始まって以来、氏子の力によって現代まで受け継がれてきました。

江戸時代、茨木村は二十七の町から成り立っていました。在郷町であった茨木村は産業が盛んであり、米屋町・材木町・魚屋町などかつての城下町を偲ばせる商業に関係する名前の町名の多いことが特徴です。

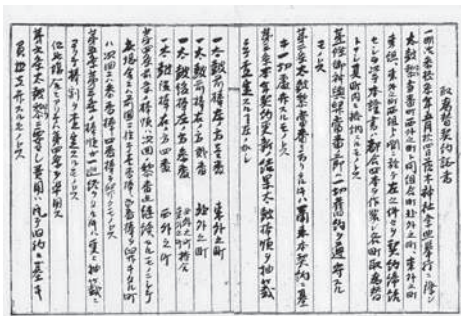
その二十七の町を七つの組に分け、各組がその年の当番として夏祭の渡御を齎行していました。江戸時代より、夏祭の渡御は神輿と太鼓によって成り立っていました。ある組が神輿渡御を担当すれば、別の組が太鼓巡行を担当するというように、輪番制で夏祭渡御を運営していました。



江戸時代中期[享保18年(1733)]の茨木村の様子

「内閣文庫 茨木之地図(宝暦4年成立)」(国立公文書館蔵)より作成

- 【一組】 西外之町 (36戸)・南外之町 (32戸)・北外之町 (23戸)
【現在の宮元町・別院町・本町・永代町】
- 【二組】 北市場北組 (25戸)・北市場中組 (13戸)・北市場南組 (28戸)
・北中町 (18戸)・北清水町 (17戸)・西馬口引町 (22戸)
・東馬口引町 (15戸)
【現在のの上泉町・片桐町・本町】
- 【三組】 魚屋町 (22戸)・材木町 (32戸)・城之町 (20戸)・北城町 (14戸)
【現在のの本町・元町・別院町・片桐町】
- 【四組】 突抜町 (38戸)・米屋町 (29戸)・鳥屋町 (18戸)
【現在の別院町・本町・元町・大手町】
- 【五組】 柴屋町 (26戸)・六軒町 (26戸)・鋸屋町 (20戸)
【現在の大手町・元町・片桐町】
- 【六組】 立町 (27戸)・南中町 (29戸)・新庄町 (35戸)
【現在の大手町・新庄町】
- 【七組】 南清水町 (11戸)・西大町 (18戸)・東大町 (18戸)・西之町 (24戸)
【現在の大手町・元町】



「萩谷吉男家文書」(茨木市立文化財資料館蔵)

*各組での渡御巡行運営の様子、各町の誇りをかけて、明治時代に入っても、江戸時代と同様に、組による輪番制で渡御巡行は運営されていました。それでは各組の中ではどのように運営を分担していたのでしょうか。明治時代の古文書(「萩谷吉男家文書」茨木市立文化財資料館蔵)から、各町での様子がよく分かる一例を紹介します。古文書によると、明治三十三年(二九〇〇)五月十一日に、西外之町・北外之町・東外之町東組・東外之町西組の四町の間で、この後にやってくる夏祭に向けて、神輿及び太鼓の取り決め文書が作成されています。

まず神輿については、「一切旧約ヲ遵守スルモノトス」とあり、先例を守るように再度念が押されています。

■太鼓台をめぐる動き

一方、太鼓については、担当する太鼓台の場所を抽選にて決定しています。抽選の結果、明治三十三年の夏祭では

- 太鼓前棒 右 北外之町
- 太鼓前棒 左 東外之町
- 太鼓後棒 右 西外之町
- 太鼓後棒 左 西外之町
- 太鼓後棒 左 東外之町
- 持台

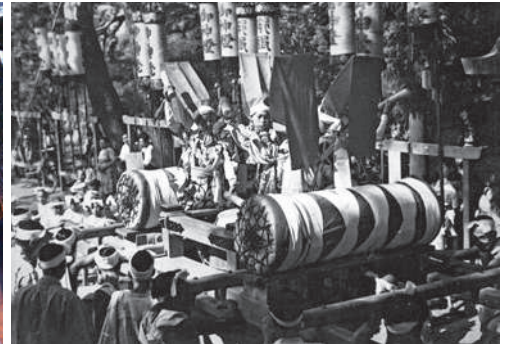
というように決まりました。

そして「本証書ハ都合四本ヲ作製シ各町取為替トナシ、其町内ニ格納スルモノトス」とあるように、総代や世話人代表が捺印した書面を四通作り、各町がそれぞれ保管するという厳重な取り決めが成されていたことが分かります。

この古文書から分かることは、太鼓台に関して各町が担当したい場所が競合しており、抽選という方法で公平に決定していたことが分かります。つまり、各町が誇りを持つて夏祭を支えていたことがうかがえます。



令和6年 太鼓台の宮入り



昭和12年 太鼓台の宮入り

奉賛会総会

茨木神社奉賛会は、氏神様に崇敬の誠を捧げて御神縁を一層深め、神社を立派に護持し、これを子孫

に伝えていくことを目的として、昭和四十九年に設立されました。

奉賛会令和八年度総会が、去る四月十八日(土)に開催されました。四月十八日は、当神社の「祈年祭」の日にあたり、以前は総代のみの参列のもと斎行されていましたが、平成の初めの頃より奉賛会総会を併せて開催し、氏子・崇敬者として多数ご参列いただいております。

午後二時より会員四十九名のご参列のもと本殿にて「祈年祭」を斎行、その後、会場を参集殿に移し総会を開催。令和八年度事業計画・予算案などの審議が行われ、承認されました。

*講演

「学生から見た茨木

(中心市街地・茨木神社)

立命館大学映像学部の

作品を通じて」

総会に続いて、当神社岡市禰宜により、立命館大学映像学部の学生達が制作した映像を視聴し、学生の視点から見た茨木神社や夏祭についての講演をいたしました。

立命館大学映像学部は、茨木神

社の近隣に位置し、令和六年度から学生の映像制作課題の取材を受け入れていきます。令和七年度は、二つの班がそれぞれ「神社と商店街」・「夏祭を未来へ残していくために」というテーマで映像を制作しました。



奉賛会総会 講演の様子

学生達は、神職だけでなく商店街や観光協会関係者、夏祭関係者にも積極的にインタビューし、それぞれの立場からの想いや展望を収録してまいりました。

奉賛会総会には、地域の方々から、夏祭を中心となつて支える方々まで参加されておられることから、多くの方々が学生達の制作した映像から刺激を受けておられました。

境内の美しい花々

四月から五月上旬にかけて、境内では様々な美しい花々が咲き誇りました。

本殿前西側や儀式殿前、東参道にはツツジが順番に咲いていく様子が印象的であるとともに、南鳥居付近では西側の藤棚と東側のハナミズキの競演が見事でした。



今後の神事について

◇大祓・輪くぐり神事

●六月三十日午後二時より、本殿前にて大祓神事を斎行いたします。自由にご参列いただけます。ご参列いただいた皆様には「祓物(はらえつもの)」をお配りし、参列者皆様に今年前半の罪穢れを祓い、後半の無病息災を祈ります。

●令和八年輪くぐり神事を記念した特別御朱印を頒布いたします。六月にふさわしい瑞々しい凶案となっております。輪くぐり神事にご参拝の際にぜひお受け下さい。

(初穂料は五百円です。数に限りがございますので、準備枚数が無くなり次第終了とさせていただきます。どうぞご了承ください。)



◇夏祭

七月十三日【宵宮】は、午後に触れ太鼓が氏子地域を巡行し、翌

日の神輿渡御を氏子の皆様に知らせます。十四日【本宮】はまず子供神輿が、その後午前十時頃より神幸祭の後、大神輿が宮出しします。

これからの行事予定

◆大祓神事

六月三十日 午後二時斎行
人形祓・茅の輪くぐり
厄除神楽
茅の輪守授与

◆夏祭

七月十三日・宵宮
十四日・本宮
午前十時斎行
神輿渡御・神楽奉納

◆末社事平神社例祭

九月十日

◆例大祭(秋祭)

十月十日 午前十時斎行

◆七五三詣

十一月中随時

◆末社恵美須神社例祭

十一月二十日

◆天石門別神社記念祭

十一月二十二日

◆新嘗祭

十一月二十三日

◆大祓・除夜祭

十二月三十一日

神社ウェブサイト「夏祭 特集ページ」をぜひご覧下さい。

茨木神社公式ウェブサイトには、茨木神社夏祭のあゆみや、現在の様子を簡潔にまとめた特集ページがございます。遅くとも江戸時代中期には始められ、摂津国「島下郡の祇園祭」と親しまれてきた夏祭の歴史や、7月13日【宵宮】・14日【本宮】の様子を、写真を用いながら解説しています。また「茨木神社公式YouTubeチャンネル」にある令和元年斎行の夏祭をまとめた動画へリンクも貼っています。Google等で「茨木神社」と検索、もしくはQRコードからどうぞご覧下さい。

<https://www.ibarakijinja.or.jp/natsumatsuri/>

